

2024 | 秋 |

あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol.12



Contents	02 …… キャンパスカレンダー	08 …… 海外留学・実習の実施状況、学生のキャリア支援、 高大接続推進の取り組み
	04 …… 令和5年度事業報告	09 …… 医学部付属病院
	05 …… 令和5年度決算報告	10 …… 医学部付属杉並病院
	06 …… 人事情報、学事情報、保健学部トピックス	11 …… ご寄付
	07 …… 医学部・総合政策学部・外国語学部トピックス	



5月から8月にかけて各学部でオープンキャンパスが開かれ、高校生や保護者など合わせて約9,000人が参加しました



医学研究科が研究交流会を開催。28人の医学部生が教員と交流しながら研究への関心を高めました



井の頭キャンパスで国際交流の集いを開催。留学生や在学生、教職員等115人が交流しました



医学部付属杉並病院の開院祝賀会を京王プラザホテルで開催。来賓を含め約280人が参加しました



米国ペンシルベニア州立クッツタウン大学の学生11人が来訪。1週間にわたり総合政策学部生と授業や学外のアクティビティなどで交流しました



5月から7月にかけて各学部で前年度の優秀学生表彰が行われました



総合政策学部で夏季休暇期間に日商簿記検定3級の集中対策講座を実施。1年生約50人が受講しました



福島県いわき市鹿島町で行われた地域医療への理解を深める「いとちプロジェクト」に、医学部と保健学部看護学科の学生7人が参加しました



米国テキサスA&M大学生など23人が来訪。約2か月にわたり、外国語学部生と互いの言語や文化を教え合うなど交流しました



医学部で海外クリニカルクラークシップ(海外臨床実習)を実施。30人の学生が約1か月間、各地で実習を行いました



医学部付属病院で七夕飾りを設置。ボランティアサークルの学生達も手伝いました



令和6年度9月学位記授与式を実施。学部生・院生の24人に学位記が授与されました



井の頭キャンパスで、学生が悩みを気軽に相談できる場として「事務職員と話そう会」を3日間実施。のべ35人の学生が参加しました



3万人が来場した井の頭公園での三鷹国際交流フェスティバルに、外国語学部やボランティアサークルの学生たちが運営サポートで参加しました



三鷹キャンパスで収穫した杏の実を医学部生有志と教員がジャムにし、「杏の実の収穫祭」で振る舞いました。三鷹・井の頭キャンパスの学生や教員約70人が集まり、杏林の由来に触れながら交流を楽しみました

令和5年度 事業報告

I. 学校法人の概要 (抜粋)

区 分		令和5年度		
設置する学部等		大学院：3 研究科15専攻 学部等：4 学部16学科		
学生数 (収容定員) (人)		令和4年度	令和5年度	令和6年度参考
		5,895 (5,743)	5,967 (5,827)	5,955 (5,916)
教職員数 (人)	本務教員 (兼務教員)	711 (312)	702 (311)	768 (297)
	本務職員 (その他職員)	2,507 (54)	2,551 (59)	3,121 (118)
	合計	3,218 (366)	3,253 (370)	3,889 (415)
令和6年4月入学者数 (人)		入学者数 (入学定員)：医学部119 (119) 保健学部807 (786) 総合政策学部241 (230) 外国語学部203 (252)		

II. 事業の概要《主要実施事業抜粋》

区 分	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業報告	
教育・研究活動	医学部	臨床実習の充実 医学教育分野別評価受審の過程で明らかとなった、改善必要事項への対応(継続)	・[診療参加]の臨床実習を重視することから、学外実習枠を十分に確保するため、外部施設との協定をさらに進めた。また、学外施設を含め統一した臨床実習の充実をはかるべく、学外施設の責任指導医参加の説明会を開催し、指導内容、評価方法の統一を図った。 ・医学部教育改善委員会を中心に年次報告書(一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)に提出)を作成した。これは、教授会等で提示をするなど、教員へ広く周知を行い、継続的改善を実践している。
	保健学部	高齢者の健康寿命延伸に資する人材育成 入学志願者の意識変化に伴う各学科の入試改革	・厚労省が掲げる生活習慣病や超高齢社会への対策に資する人材育成を掲げ、心身の健康、運動やスポーツ科学に関連する領域の教育体制を健康福祉学科の一部に構え、教育の場として八王子キャンパスの整備を行った。八王子希望学生も多く、今後は八王子キャンパスでの健康スポーツコースの充実が望まれる。 ・少子化の影響に加え、コロナ禍による学生の受験行動の変化もあって、保健系の受験者数は全国的に減少傾向にある。令和6年度入試からは学校推薦型選抜の一部に指定校推薦枠を設けたことで受験者数は増加した。
	総合政策学部	3つのプログラムの充実	・グローバルキャリアプログラム(GCP) 関連では、9人が半年以上の海外留学をした。データデザインプログラム(DDP)については、約50人が関連科目を履修している。また、令和5年度に、文部科学省のMDASH応用基礎の認定を受けた。コミュニティベースドラーニング(CBL)で35人が地域留学に参加し、各地域の課題に取り組むことができた。
	外国語学部	成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立	・3年間開講の50科目におけるそれぞれの成績平均ポイント、学科・学年毎のTOEIC平均スコアの推移、GPAを検証し、適宜必要な対策を講じることで質保証に努めた。授業の質が低下しない範囲で学生のレベルに合った内容にすべく、年度末より各科目の概要見直しを開始した。
	データサイエンス教育研究センター	MDASH 応用基礎レベルへの申請	・総合政策学部においてMDASH応用基礎レベルの認定基準に沿ったカリキュラムの設計、教材の開発、およびシラバスの改定を実施した。更に、これらの取り組みをもって文部科学省に申請を行い、MDASH応用基礎レベルの認定を獲得した。
研究支援	科学研究費補助金の獲得のための支援拡充	・研究資金申請未経験の特に若手研究者を対象に、ファーストステップとなる研究計画の策定、研究計画調書の作成に関して研究推進センターで研究計画調書の書き方支援を行った。その結果、新規採択件数は、令和5年度31件から令和6年度54件と約7割の増加となった。 ・研究倫理観涵養のため、研究に携わる全ての者にAPRINIによるe-learningの受講を必須とし、学術研究の信頼性と研究費執行の透明性を高めるようにした。	
	研究倫理教育充実の施策実施		
学生支援活動	就職状況	・「より早く」学生の意識とスキルの上向 ・「より深く」教員や企業との連携 ・「よりきめ細かく」学生への支援と指導	・インターンシップのルール変更を受け対策講座の開催時期を前倒しで実施した他、インターンシップ以外の短期間の職業体験なども早期選考に繋がる動きがあるため、各学年向けの就職ガイダンスなどで、積極的な参加を促した。 ・大手企業や上場企業への就職を目指す学生を対象にした連続講座大手企業のインターンシップ対策を加え開催した。就職を目前にした3年生以上のみならず、低学年へ参加を呼びかけ、早期から大手企業への就職意欲の醸成を図った。 ※()は前年度 (就職率) 保健学部 98.4%(97.9%) 総合政策学部 98.1%(99.1%) 外国語学部100.0%(98.1%)
	学生支援	学生相談室業務の運用の見直し 学納金納入時の利便性向上	・今年度から学生相談は専任2名体制になったことで昨年度よりも開室日が増え、迅速に相談ニーズに応えられるよう改善された。 ・経理課、総合情報センターと連携し、学納金收受システム導入を進めており、2024年9月の稼働を予定している。
入学センター	入試広報の推進	・医学部を除く3学部往直近3年間で毎年20名以上の志願者がいる高校を選定し、引き続き学力の高い志願者の獲得に向けて高校訪問を実施した。 ・Web媒体の活用として本学入学センターホームページでの情報提供に加え、入学センター公式SNSにて鮮度の高い情報を提供することで、既存の媒体経由ではない高校生の接触者を獲得している。	
高大連携	高大連携協定締結校との入試改革 ラウンドテーブル定期開催と連携校との関係維持	・高大連携協定締結校と総合政策学部、外国語学部が覚書を交わり、総合型選抜、学校推薦型選抜において協定校制(型)の入試制度を導入し、年内入試における入学者確保を強化した。 ・新たに近隣校と高大連携協定を締結し、高校関係者参加の杏林高大接続ラウンドテーブルにおいて、活発な意見交換を行い教育交流、連携活動を開始した。	
付属病院	健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献 1. 健全な病院経営と診療内容の質的向上 2. 院内感染防止対策の強化と医療安全の推進 3. 職員の勤務環境改善と人材育成の推進 4. 地域医療機関との連携強化 【令和5年度患者動向】 ○外来患者数 年度累計599,672名(前年度600,498名) 前年度比99.9% : 862名減 ○入院患者数 年度累計299,430名(前年度288,415名) 前年度比103.8% : 11,015名増	①・DPCデータを活用し、加算算定等を積極的に進めた。 ・手術室の効率的運用により手術件数は13,308件(対前年比+2.7%)と増加し過去最高の手術件数となった。 ・病床の効率的運用による病床回転率と稼働率の向上に向け、包括的改善を目的として、前方・後方連携のより一層の強化とPFM(Patient Flow Management)の準備を進めている。 ②・感染防止体制を強化するため、それまで医療安全管理部のもとにあった感染対策室を病院長直属の感染制御部として組織変えした。 ③・タスクシフトの推進のため、診療支援室設置による医師事務作業補助体制の充実と業務拡大、特定行為研修看護師教育課程の推進と専門・認定看護師の活用促進、ITを活用した事務作業等の効率化、遺伝子診療、がんゲノム医療、治験の推進と人材の育成、院内Wi-Fi環境の整備およびリモート会議等を活用した院内諸会議の効率化の促進等の施策を実施した。 ④・ICTを利用した近隣医療機関との連携強化、連携施設のデータを活用した初診患者数の増加、東京都ドクターヘリ事業の安定した運用等の施策を実施。	

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。

令和5年度 決算報告

■ 資金収支計算書の概要

総資金収入は722.35億円、総資金支出は683.63億円の規模である。令和5年度の前年度繰越支払資金は67.84億円。また、令和5年度決算の翌年度繰越支払資金は、55.35億円となり、12.49億円の資金が減少した。

収入の部

科 目	令和5年度予算	令和5年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	118.61	116.66	1.95
手数料収入	4.42	4.72	△ 0.30
寄付金収入	4.18	2.98	1.20
補助金収入	25.17	31.08	△ 5.91
資産売却収入	0.00	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	6.05	4.66	1.39
医療収入	423.43	423.80	△ 0.37
受取利息・配当金収入	0.15	0.19	△ 0.04
雑収入	2.21	4.11	△ 1.90
借入金等収入	20.00	20.00	0.00
前受金収入	19.48	20.56	△ 1.08
その他の収入	88.84	93.56	△ 4.72
小 計	712.60	722.35	△ 9.75
資金収入調整勘定	△ 84.76	△ 109.47	24.71
前年度繰越支払資金	75.91	67.84	8.07
収入の部合計	703.75	680.72	23.03

支出の部

科 目	令和5年度予算	令和5年度決算	差 異
人件費支出	232.99	234.68	△ 1.69
教育研究経費支出	34.07	32.71	1.36
医療経費支出	222.80	233.97	△ 11.17
管理経費支出	30.19	30.79	△ 0.60
借入金等利息支出	1.30	1.29	0.01
借入金等返済支出	31.22	30.22	1.00
施設関係支出	34.54	32.72	1.82
設備関係支出	16.91	14.43	2.48
資産運用支出	12.20	11.12	1.08
その他の支出	57.98	61.65	△ 3.67
小 計	674.24	683.63	△ 9.39
資金支出調整勘定	△ 55.33	△ 58.25	2.92
翌年度繰越支払資金	84.85	55.35	29.50
支出の部合計	703.75	680.72	23.03

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

■ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収入計は588.68億円、事業活動支出計は588.43億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は0.25億円の収入超過となった。基本金を組み入れた後の当年度収支差額は△44.82億円。令和5年度の前年度繰越収支差額は△985.74億円。翌年度繰越収支差額は△1,030.49億円となった。

		科 目	令和5年度予算	令和5年度決算	差 異	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	118.61	116.66	1.95	
		手数料	4.42	4.72	△ 0.30	
		寄付金	4.27	3.05	1.22	
		經常費等補助金	23.80	28.11	△ 4.31	
		付随事業収入	6.05	4.66	1.39	
		医療収入	423.43	423.80	△ 0.37	
		雑収入	2.10	3.61	△ 1.51	
		ア) 教育活動収入計	582.72	584.62	△ 1.90	
		事業支出の部	人件費	236.94	236.73	0.21
			教育研究経費	52.37	50.89	1.48
	医療経費		252.90	262.41	△ 9.51	
	管理経費		35.49	35.95	△ 0.46	
			徴収不能額等	0.01	0.19	△ 0.18
			イ) 教育活動支出計	577.72	586.18	△ 8.46
A) 教育活動収支差額			5.00	△ 1.55	6.55	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.15	0.19	△ 0.04	
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00	
	ウ) 教育活動外収入計	0.15	0.19	△ 0.04		
	事業支出の部	借入金等利息	1.30	1.29	0.01	
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00	
		エ) 教育活動外支出計	1.30	1.29	0.01	
B) 教育活動外収支差額			△ 1.14	△ 1.10	△ 0.05	
經常収支差額 (A+B)			3.85	△ 2.66	6.51	
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00	
		その他の特別収入	2.12	3.85	△ 1.73	
		オ) 特別収入計	2.12	3.85	△ 1.73	
	事業支出の部	資産処分差額	0.65	0.87	△ 0.22	
		その他の特別支出	0.01	0.07	△ 0.06	
		カ) 特別支出計	0.67	0.94	△ 0.27	
C) 特別収支差額			1.45	2.91	△ 1.46	
基本金組入前当年度収支差額 (A+B+C)			5.30	0.25		
基本金組入額			△ 49.18	△ 45.07		
当年度収支差額			△ 43.88	△ 44.82		
前年度繰越収支差額			△ 1,009.24	△ 985.74		
基本金取崩額			0.00	0.08		
翌年度繰越収支差額			△ 1,053.13	△ 1,030.49		
事業活動収入計 (ア+ウ+オ)			585.00	588.68		
事業活動支出計 (イ+エ+カ+予備費)			579.69	588.43		
事業活動収支差額 (A+B+C)			5.30	0.25		

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

		(単位：億円)			
※	内訳	減価償却額合計(教育活動収支に含む)	53.70	52.20	1.50
		教育研究経費	18.29	17.91	0.38
		医療経費	30.09	29.06	1.03
		管理経費	5.32	5.23	0.09

予算・決算の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

■ 2024年6月 名誉教授

保健学部
岡島 康友

学事情報

2024年9月学位授与者数

学部	学 部	学 生 数
学 部	総合政策学部	5
	外国語学部	10
学部合計		15
大学院	研 究 科	計
大 学 院	医学研究科	5
	保健学研究科	1
	国際協力研究科	3
大学院合計		9
総 計		24

2024年9月入学者数

大学	学 部	学 生 数
大 学	総合政策学部	1
学部合計		1
大学院	研 究 科	計
大 学 院	医学研究科	2
	保健学研究科	1
	国際協力研究科	2
大学院合計		5
総 計		6

学生表彰

■ 2023年度成績優秀学生

本学では、各学部学科(専攻)・学年から、当該年度の成績優秀者を表彰しています。2023年度は4学部で51名が対象となりました。

医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
5名	31名	6名	9名

■ 2023年度特別表彰学生

難関資格・検定や課外・社会活動等できわめて優秀な実績をあげた学生を表彰しています。2023年度は4学部で8名が対象となりました。

医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
2名	2名	2名	2名

■ 2023年度学部賞

各学部が認めた優秀な実績・功労を残した学生を表彰しています。2023年度は4学部で105名、1団体が対象となりました。

医学部	保健学部	総合政策学部	外国語学部
4名、1団体	20名	43名	38名

【保健学部】東京消防庁三鷹消防署から感謝状

保健学部では毎年、全学科の1年生が「救命救助法」の実習として、一次救命処置に必要な心肺蘇生やAEDなどの技術を習得する講習と応急手当の指導方法を学ぶ講習を三鷹消防署員と先輩学生の指導を受けながら学んでいます。この長年にわたる学部の取り組みに対して、今年9月に東京消防庁の三鷹消防署長から感謝状が授与されました。

学部では直近の過去5年間で、およそ2,490人が救命講習を受講し、さらにおよそ260人が応急手当普及員に認定されています。また、技術を身につけた救急救命学科の学生たちは、地域の小中学校の生徒や連携市の地域住民などを対象に救命講習を実施するなど普及活動に取り組んでいます。



【医学部】学年を縦断した交流を促進

医学部では、学年を越えた学生間の交流促進を目的に、2023年度から「Kyorin Student Community System」を実施しています。具体的には、1~4年生の各学年の学生4人ずつ、1・2年生の担任などから選任された教員アドバイザー、本学卒業生である若手医師の先輩アドバイザーで構成されたグループで交流を行っています。

2024年度は新グループの顔合わせとして、4月に全30グループが集まり、会食を伴うキックオフミーティングを開催し、参加者たちは和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました。それ以降は、各グループで個別に交流の機会を設けています。こうした取り組みによって、学生が勉強や学生生活の悩みなどを気軽に相談できる環境づくりを進めています。



【総合政策学部】全国各地でのCBL(地域留学)が3年目に

総合政策学部では、地域活動を通じてその地域の課題を理解し、解決策を導く力を習得することを目的として、CBL(コミュニティ・ベースド・ラーニング)プログラムを実施しています。そのうち、東京以外の地域に一定期間滞在しながら活動を行う「地域留学」は、今年度、宮城県石巻市や愛知県豊橋市など、6つの地域で夏季休暇中に実施されました。このプログラムは外国語学部生も参加することができ、総合政策学部の1・2年生17人と外国語学部2年生1人が参加しました。学生たちは、2週間から1か月ほど現地に滞在し、自治体やNPO法人の関係者などと課題を掘り下げ、地域活性化のため、観光や産業の活性化の提案を行いました。

実施地域	参加人数
宮城県石巻市	1人
宮城県東松島市	4人
福島県いわき市	4人
栃木県日光市	2人
長野県塩尻市	3人
愛知県豊橋市	4人



【外国語学部】観光交流文化学科の学生がホテル運営を体験

観光交流文化学科ではホテルや航空会社など観光業界での実習を行っています。8月には長野県下高井郡山ノ内町にある志賀高原オリンピックホテルでのホテル運営の体験が実施されました。このプログラムは、一般社団法人観光教育・インターンシップセンターが主催となり、複数の大学と合同で行われています。3回目となる今回は、本学から3年生16人が参加し、17日間にわたり、客室の清掃や配膳、ハイキングなどのアクティビティのガイドを体験しました。また、周辺にある他のホテルや旅館でも同様の仕事を体験し、フランスやタヒチなど海外のインターンシップ生や外国人観光客とも交流しました。



海外留学・実習の実施状況

2024年は58人の学生が中長期間の海外留学を行い(現在渡航中含む)、55人の学生が数週間の短期研修・インターンシップに参加しました。また、医学部で実施している海外臨床実習には、30人(のべ31人)の6年生が5月から7月にかけて様々な地域の医療機関で実習を行いました。インフレなどにより海外留学へのハードルがある中、参加人数はコロナ禍以降、回復傾向にあります。また医学部では過去最大の参加人数となりました。さらに、本学では海外からの留学・研修生の受け入れにも力を入れており、学生が国内外で異文化交流や学習ができる環境作りに引き続き努めていきます。



■ 留学 約4ヶ月～11ヶ月

【総合政策学部、外国語学部】

国	人数	国	人数
アメリカ	1	マレーシア	1
イギリス	11	韓国	2
オーストラリア	22	台湾	1
カナダ	3	中国	16
ドイツ	1		

■ 短期研修・インターンシップ 約2週間

【総合政策学部、外国語学部、保健学部】

国	人数
アメリカ	23
イギリス	11
カンボジア	6
カナダ	15

■ クリニカルクラークシップ(海外臨床実習) 約1ヶ月

【医学部】

国	人数	国	人数
アメリカ	10	イタリア	2
イギリス	3	中国	1
カナダ	1	台湾	3
フランス	5	フィリピン	6

学生のキャリア支援

キャリアサポートセンターでは、各種対策講座や個別相談など様々なプログラムを通して、学生のキャリア形成・就職支援を行っています。

7月には、就職活動で重要性が増しているインターンシップの参加に備える講座が開かれました。夏季休暇中のインターンシップは、学生が業界や企業を深く知り、4年生から本格的に始まる就職活動に直接つながる大切な機会です。この準備講座には、総合政策学部、外国語学部、保健学部からインターンシップを控えた3年生や1・2年生など合わせて56人が参加しました。講師は、インターンシップを通して視野を広げ、自分の適性を把握することの大切さや就職活動では言語化して伝えることが大事であることなどを説明しました。また言語化して物事を伝える訓練として、参加者同士の意見交換も行われ、学生たちはインターンシップへの理解を深めました。



高校との連携推進としてキャンパスデーを実施

本学では、高校生にリアルな大学生活を体験してもらうため、高校と連携して「キャンパスデー」を実施しています。今年度は、5月に藤村女子高校(武蔵野市)、7月には昭和第一学園高校(立川市)とキャンパスデーを行い、それぞれ、2年生115人、1・3年生33人が参加しました。参加者は、保健学部、総合政策学部、外国語学部の講義を在學生と共に受講したり、食堂でランチをとったり、図書館や保健学部の実習室などを見学しました。オープンキャンパスとは異なるリアルな大学生活の体験に、満足したという声がたくさん寄せられました。さらに秋には、國學院大學久我山高校の1年生およそ40人を受け入れる予定です。

高大接続推進室では、今後も様々な取り組みを通して、高校との連携を深めていきます。



医学部付属病院

病院機能評価の認定

当院は、2024年9月6日に財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価(3rdG: Ver.3.0・一般病院3)」の認定を取得しました。審査項目は、「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践1、2」「理念達成に向けた組織運営」からなり、病院長をはじめとする病院幹部のリーダーシップのもと、病院の質向上に積極的に取り組んでいるとして、多くの項目で高い評価を受けました。

これからも、多摩地域の中核病院として良質な医療の提供に努めていきます。
【認定期間:2024年3月15日～2029年3月14日】



快適なお産のために産科病棟を改修

より快適なお産の環境を提供するために、産科病棟(第1病棟2階)が8月に全面リニューアルされました。新病棟は個室が12室に増床され、2人、4人部屋を含め、合計24室になりました。フロアは白や明るい木目の色を基調とし、ダイニングには木材を生かしたテーブルや椅子、窓に面したカウンターが配置されています。また個室から4人部屋までベッドは窓側にあり、明るい日差しが差し込む設計になっています。さらに個室には、産前・産後にゆっくりと過ごせるように冷蔵庫、クローゼット、テレビなどが備えられ、トイレやシャワールームを完備した部屋もあります。陣痛から分娩、産後の回復までを行うLDRは2室あり、産痛緩和をはかるためにユニットバスが併設され、音楽をかけてリラックスすることもできます。また、ナースリールームは、ゆとりをもった空間設計にしています。

また、当院は総合周産期母子医療センターとして、高度な医療を必要とする妊婦に24時間体制で対応しています。母体・胎児の集中治療室(MFICU)は産科病棟と導線がつながっており、円滑に移動できる設計になっています。



国際共同試験で潰瘍性大腸炎の治療薬の保険適用に貢献

久松理一教授や齋藤大祐講師をはじめとする消化器内科は、2018年から2022年にかけて、41か国261の医療施設で行われた国際共同試験に参加し、指定難病である潰瘍性大腸炎に対する治療法の有効性をランダム化比較試験で検証し、医学的な有効性を証明しました。この結果を受けて、日本でも潰瘍性大腸炎に対するリサンキズマブ(医薬品名スキリージ)を用いた治療法が承認され、今年6月から保険診療適用となりました。

また、この共同試験の結果は、The Lancet、NEJMと並ぶ世界3大医学雑誌の1つであるJournal of American Medical Association(JAMA)に2024年7月に掲載されました。



久松 理一 教授

医学部付属杉並病院

これまでの運営状況報告

医学部付属杉並病院が開院してはや半年が過ぎました。この間、皆様には様々な応援をいただきましたこと心より御礼申し上げます。

7月には開院祝賀会と、杉並区や中野区の医師会を中心とした医療施設との医療連携セミナーを開催いたしました。お陰様で、新しく患者さんを紹介いただける施設や登録医も増え、紹介率や逆紹介率も向上しております。開院当初の病床稼働率は60%を切っていましたが、8月上旬には一時80%を超えるまでに改善しました。また、9月には世田谷区医師会の施設見学会が行われ、世田谷区や渋谷区からの患者さんも徐々に増えております。一方で、三鷹の本院に重症者を搬送し救命できたこともありますし、反対に手術患者を紹介されるケースも増えております。今後も患者さんのために本院との密な連携を進めてまいります。9月中旬には医局の拡張工事が終わり、約100名の常勤医もようやく落ち着いて仕事ができる環境になりました。

今後は、市民向けの公開講座を積極的に開催するなど、地域の皆様に信頼され、愛される病院を目指して職員一同努力してまいります。今後も皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。



医学部付属杉並病院
病院長 市村 正一

開院祝賀会を開催

医学部付属杉並病院の誕生を祝い開院祝賀会が7月13日に行われました。新宿の京王プラザホテルで開催された会には、杉並区をはじめとする近隣医療機関の医師や医師会長などの来賓83人を含め、およそ280人が出席しました。

はじめに松田剛明理事長から挨拶があり、「医学部付属杉並病院を患者の目線を大切にす全人的、総合的医療を実践する病院にしていきたい。そして、大学病院として各診療科が高度な医療を実践できる環境を整えたい」と抱負が語られました。その後、渡邊 卓学長、市村正一病院長、平形明人医学部長からも参加者への謝意や挨拶が述べられました。来賓の岸本聡子杉並区長からは「東京都指定の二次救急医療機関として、365日24時間、小児医療を含めた救急医療を支えるなど地域医療の発展に寄与いただいています。区内で初となる大学付属病院として質の高い地域医療を行い、区民の安心、安全を支えてください」と期待の言葉が寄せられました。



第1回医療連携セミナーを実施

7月18日、新宿の京王プラザホテルで第1回医療連携セミナーを開催しました。杉並区、中野区、世田谷区、渋谷区、新宿区の医療機関から140人を超える皆さまにご参加いただきました。

第1部では、まず市村正一病院長から病院概要を中心とした病院紹介を行いました。続いて、各診療科の責任者からスライドを用いた診療内容の紹介が行われ、さらに当院への放射線画像検査の依頼方法と登録医制度について説明しました。第2部では盛大な懇親会が催されました。

今回の医療連携セミナーにより、当院と近隣の医療機関との役割分担があらためて明確にされたと考えます。当院は、引き続き近隣医療機関との積極的な医療連携に邁進していきます。

患者支援センター長 楊 國昌



ご寄付

クラウドファンディング事業を開始

本学では、研究活動を通じて社会貢献に資することを目的に、今年度からクラウドファンディング事業を開始しました。クラウドファンディングは、インターネットを通じて事業内容を公開し、賛同を得た不特定多数の支援者から支援金を募る仕組みです。

本学のプロジェクト第一号は、「多剤耐性菌の脅威に挑む『ファージ療法』研究の加速を」として、ファージ研究チームが実施しました。6月3日～7月31日の間に、目標金額500万円を大幅に超える900万円あまりのご支援をいただくことができました。皆様のご期待に応え、一日も早く日本でファージ療法を選択できる日が来るよう、研究に邁進いたします。

続く第二号は、「若き医師たちの学びを支える！トレーニングシステム整備へ」として、外科教育チームが実施しました。9月2日から10月31日まで実施された寄付は、開始2週間で目標金額410万円を突破することができ、支援者から日本の外科医療への応援メッセージを多数頂戴しました。皆様からのご支援をもとに、若手医師の育成に励んでいきます。



三鷹市ふるさと納税を活用した寄付を開始

本学は、社会に貢献する人材の育成ならびに、本学の知を活かした社会貢献活動をより一層充実させるため、三鷹市のふるさと納税を活用した「三鷹市大学応援交付金」制度に7月から参画しています。これは三鷹市が、ふるさと納税を通して、地域貢献を行う市内の大学を支援するため今年度から開始したものです。

いただいたご寄付のうち、三鷹市から交付された資金は本学の学生に向けた教育環境等の整備や研究社会活動などに活用いたします。広く皆さまからのご支援をお待ちしております。

【寄付の活用事業例】

- ① 三鷹市または市内で活動する地域団体と連携・協働して行うまちづくり活動事業
- ② 市民等の生涯学習・リカレント教育に係る事業
- ③ 学生の教育・生活環境(経済支援を含む)の整備、国際交流の推進に係る事業
- ④ 大学内の施設、設備または環境保全(緑化推進を含む)等の充実のための事業
- ⑤ 教育研究環境の整備(教育研究活動の支援を含む)に係る事業 など

●お問い合わせ先
杏林学園募金事務局
TEL:0120-50-1665



寄付方法等詳細はこちら

ご寄付の報告

学生支援のための教育研究募金や医療を充実させるための付属病院へのご寄付等、多くの皆様からご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

ご寄付はそれぞれの用途・目的に沿って有効に活用させていただきます。

■2024年度寄付状況(期間:4月1日～9月30日)

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	12件	17,166,216円
医学部付属病院へのご寄付	26件	1,921,000円
奨学寄付金	49件	62,525,000円
杏林大学リサイクル募金	10件	4,724円
クラウドファンディング	1件	9,321,000円(手数料込み)
総計	98件	90,937,940円

●お問い合わせ先
杏林学園募金事務局(経理課内)
〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665(フリーダイヤル)
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園募金サイト





あんず Anzu 2024 | 秋 |

広報誌 あんず Vol.12

2024年11月発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611

(表紙の写真は医学部附属杉並病院)